

授業科目名	法医学	担当教員	教授 竹下 治男 (他 教員及び嘱託講師)
開講年次・学期	3年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義・実習	時間数/単位数	講義 1 2 時間・実習 1 時間
<b>授業概要</b>			
<p>法医学は医学の中では社会医学に属し、「法律が適正に運用されているか否か」、「社会の疾病」を対象とする応用医学である。</p> <p>法医学の講義は主に法医解剖例を資料として行われるが、臨床医を志す医学生にも実際に法医学の知識が必要となる。死体現象、損傷、窒息、異常温度死、内因性急死、嬰兒殺、法医中毒学、血液型、個人識別等の実務的なものから、死の判定、脳死、臓器移植、体外受精、遺伝子操作等の医の倫理を含めた社会的問題に至る広範な分野を取り扱う。</p>			
<b>到達目標</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個体死や脳死の概念を正確に把握し、これらの相違が認識できる。</li> <li>2. 早期および晚期死体現象の特徴を理解し、死後経過時間や死亡時刻が推定できる。</li> <li>3. 創傷を観察し、その性状、程度、種類、凶器の種類、受傷機転等が正確に判断できる。</li> <li>4. 死亡診断書（死体検案書）を法医学的に正確に記載する方法を修得する。</li> <li>5. 法医解剖に際して、必要な検査項目が選定できる。</li> <li>6. 薬毒物中毒の一般的知識を修得し、発生頻度の高い中毒の分析方法・結果の吟味ができる。</li> <li>7. 血液型の種類、遺伝形式を学び一般的なABO式血液型やRh式血液型について判定ができる。</li> <li>8. 死後画像検査（AiCT）の利点、欠点を理解し、死因を推定できる。</li> </ol>			
<b>成績評価の方法</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選択肢問題や事例検討型の筆記試験</li> <li>2. 死亡診断書（死体検案書）の作成実習</li> </ol> <p>合否基準：期末試験で定めた基準により判定する</p>			
<b>参考書</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 佐藤喜宣：臨床法医学テキスト 中外医学社</li> <li>2. 田中宣幸 他：学生のための法医学 南山堂</li> <li>3. 高取健彦：エッセンシャル法医学 医歯薬出版</li> <li>4. 岸紘一郎：法医血清学的検査法マニュアル 金原出版</li> <li>5. 永野耐造 他：現代の法医学 金原出版</li> <li>6. 厚生労働省編：死亡診断書（死体検案書）記入マニュアル平成31年度版</li> <li>7. 死後画像読影ガイドライン：金原出版</li> <li>8. Saukko et al : Knight's Forensic Pathology, Hodder Arnold</li> <li>9. Klaassen :Casarett and Doulls Toxicology, McGraw-Hill</li> <li>10. Levy et al : Essentials of Forensic Imaging, CRC Press</li> </ol>			
<b>オフィスアワー</b>			
<p>授業に対する質問は随時受付します</p> <p>竹下：htakeshi@med.shimane-u.ac.jp 藤原：jfujihar@med.shimane-u.ac.jp 木村：k-kaori@med.shimane-u.ac.jp</p>			
<b>コア・カリとの関連</b>			
<p>A-1-1) 医の倫理と生命倫理、A-1-2) 患者中心の視点、A-1-3) 医師としての義務と裁量権、 A-6-1) 安全性の確保、A-6-2) 医療上の事故等への対処と予防、 B-2-1) 死と法、 C-3-3) 生体と薬物、C-4-1) 遺伝的多様性と疾患、 E-5 物理・化学的因子による疾患、E-7 成長と発達、E-9 人の死</p>			